

北海道中学軟式野球連盟 第45回 全道中学生軟式野球大会 要項



大会ルール、特別規定

A

基本は、2025年度、公認野球規則、競技者必携による。

指名打者制度(DH制)の導入をする。また、「大谷ルール」の採用はしない。

試合を円滑に行う目的として、ピッチクロック(走者無し、12秒。走者有り、20秒)ルールについても適用をする。

B

試合時間と試合成立及びコールドゲームの適用

試合は、7回戦トーナメント、2時間00分以内とする。試合成立は、4回終了時点とする。

暗黒、降雨、得点差によるコールドゲームを適用する。得点差によるコールドゲームは、4回終了時10点差、5回以降7点差とする。また、暗黒、降雨で試合が中止になった場合、4回以前に終了した場合はノーゲームとし、4回を過ぎて

試合が成立し、同点で中止になった場合は、再試合にしないで翌大会日の第1試合に先立って特別継続試合とする。

試合時間について、基本は後攻チームが勝っている場合、その後攻チームの攻撃中に2時間00分を過ぎた場合でも、次イニングの表の攻撃には入ることとする。先攻チームが負けていて表の攻撃が終わった時点で残り試合時間が5分を切っている場合については、裏の攻撃に入らずゲームセットとする。詳細、考え方については大会本部に確認のこと。

C

投球制限について

投手の投球制限は、1日100球とする。

ただし、打者の途中で100球に達した場合は、その打者が打席を完了するか、攻守交代まで投球ができる。

ボークとなった投球も投球したものとして投球数にカウントする。けん制球や送球とみなされるものはカウントしない。

球数のカウント、管理は対戦チーム同士で実施することを基本と、連盟のスコアシートにも記載のこと。

D

特別延長戦(タイブレーク制度)の適用

7イニングを終えて勝敗が決しない場合、7イニング終了時に時間内であっても8回よりタイブレーク制度を導入する。

7イニングを前に2時間00分を終えて勝敗が決しない場合、次イニングよりタイブレーク制度を導入する。

内容は継続打順にて、無死1塁、2塁から攻撃開始とし、勝敗が決するまで継続とする。

決勝戦は時間制限は設けませんが、7イニングを終えて勝敗が決しない場合、8回からのタイブレーク制度は導入する。

E

使用する道具について

ユニフォームはチーム同一色とし、華美な色は慎むこと、また、捕手はレガーツ、プロテクター、ヘルメット、ファウルカップの使用を義務付ける。勿論打者、ランナーコーチのヘルメットも同様とする。

マスコットバット、リング、鉄棒、バットスプレー等、試合に使用しないものの使用持込を禁止する。

F

試合の疑義、アピール、タイム回数について

疑義アピールについては、当該プレーヤーと監督のみとする。監督は疑義の申し立てをするときは「タイム」を宣告し節度ある抗議に徹すること。また、疑義抗議、タイム時以外で監督がベンチから出ることを禁止する。

尚、アウト、セーフ、ストライク、ボールのジャッジに関する確認以外の疑義抗議については受け付けない。

タイムは守備3回、攻撃3回の計6回までとする。延長戦に入った場合は、1イニング各1回とする。

G

ベンチ確保、ファールボール、シートノックについて

ベンチは番号の若い方を1塁側とする。ファールボールは両サイドを各々のベンチで行い、バックネット側は

攻撃チームの担当として徹底してください。シートノックは後攻から5分間とする(希望チーム)、天候や試合の進行状況

によっては中止することもある(大会本部の判断にて)。シートノックの際はベンチ登録以外の選手がグラウンド内に

入ることを許可する。終了時には速やかにグラウンド内から出ること。また、補助員はヘルメットを着用する。

H

球場の利用について

勝利チームはグラウンド整備の協力をお願いします。また、ゴミの始末等にもチームの指導を徹底してください。

駐車場でのトラブルには関与できませんので、応援者にも指導徹底願います。駐車場利用については早朝からの場所取り、物を置いての場所取り等はご遠慮ください。

I

メンバー交換とブルペン使用、その他事項について

前の試合の4回裏終了後、各チームの主将、監督はメンバー表3通を持って、大会本部に来てください。

また、バッテリーのブルペン使用は、メンバー交換後、5回に入った時点から可で必ず許可をもらって入ってください。

連盟ホームページに掲載用の記録スコアシートを記入、提出して頂きます。用紙はメンバー交換時にお渡しします。

J

その他の注意事項

大会期間中の熱中症対策等は、各チームで責任を持って行ってください。

チームは中学生のチームらしく、スポーツマンらしい態度で大会に参加すること。野次等の行為をなくし、

敵味方関係なく好プレー等には拍手を送り、全力でプレーすることを指導者も指導を心掛けください。